

Oracle® DIVArchive

サポート対象環境ガイド

リリース 7.5

E86512-01

2016 年 11 月

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
対象読者	5
ドキュメントのアクセシビリティについて	5
関連ドキュメント	5
表記規則	5
1. 概要	7
1.1. Oracle DIVArchive の概要	7
1.2. Oracle DIVArchive のオプションおよびライセンス	8
2. DIVA 製品の互換性	9
2.1. Oracle Database および DIVArchive バックアップサービス	9
2.2. Oracle DIVAnet	9
2.3. Oracle DIVArchive WS API	10
3. ハードウェアおよびソフトウェア要件	13
3.1. DIVArchive アーキテクチャー	13
3.1.1. システムコンポーネントの相互接続性	14
3.1.1.1. ストレージ接続	14
3.1.1.2. ビデオサーバー接続	15
3.2. Intel、Microsoft Windows、および Oracle Linux	15
3.2.1. DIVArchive オペレーティングシステムの互換性	15
3.2.2. DIVArchive Manager	16
3.2.3. DIVArchive Manager Cluster	17
3.2.4. DIVArchive Actor	18
3.2.5. DIVArchive Actor および Manager (1 台のコンピュータ)	19
3.2.6. Oracle DIVAnet 2.1	20
3.2.7. Oracle DIVAdirector	21

3.3. 一般的なストレージ要件	21
3.3.1. DIVArchive Manager	22
3.3.2. Oracle DIVArchive Actor	23
3.3.2.1. キャッシュディスク	24
3.3.2.2. ストレージまたはストレージおよびニアライン	24
4. ライブラリおよびドライブ	25
4.1. サポートされるライブラリおよび制御ソフトウェア	25
4.2. サポートされるドライブ	27
4.2.1. Sony ODA 光学ドライブ	28
4.2.1.1. DIVArchive 7.5 新しいドライブの互換性	29
5. Oracle DIVArchive Partial File Restore 形式	31
5.1. General Exchange Format (GXF)	31
5.2. Material Exchange Format (MXF)	32
5.3. Audio Video Interleaved (AVI)	34
5.4. 個別の WAV ファイルを含む Audio Video Interleaved (AVI)	34
5.5. QuickTime	35
5.5.1. QuickTime 自己完結型クリップ	35
5.6. Leitch Exchange Format (LXF)	36
5.7. 個別の WAV ファイルを含む DIF	37
5.8. Broadcast WAV (BWAV)	37
6. ソースおよび宛先	39
6.1. ソースおよび宛先サーバー	39
7. Oracle DIVArchive Avid Connectivity	43
7.1. Avid Interplay の互換性	43

はじめに

このドキュメントでは、Oracle DIVArchive Suite 7.5 によってサポートされる技術的な環境の概要について説明します。パッケージの互換性、サポートされるハードウェア、サポートされるライブラリおよびドライブ、サポートされる Oracle DIVArchive Partial File Restore 形式、サポートされるソースおよび宛先、サポートされる Avid Interplay リリースおよびトランスコーダが含まれています。

対象読者

このドキュメントは、システム管理者と Oracle インストールおよび配信チームの担当者を対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

詳細は、DIVArchive 7.5 コアのドキュメントおよびDIVArchive 7.5 追加機能のドキュメントライブラリにあるほかのドキュメントを参照してください。

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、またはテキストや用語集で定義される用語を示します。

表記規則	意味
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

第1章 概要

この章では、Oracle DIVArchive Suite の概要と使用可能なオプションおよびライセンス情報について簡単に説明します。

1.1. Oracle DIVArchive の概要

Oracle DIVArchive アーキテクチャーを使用すると、ブロードキャストビデオサーバー、ストレージエリアネットワーク、エンタープライズテープライブラリなどの、多くのさまざまなタイプのサーバーやテクノロジーの統合が可能になります。DIVArchive 7.5 は、システム間の相互運用性をサポートできるため、貴重なコンテンツへの長期間のアクセス性の確保に役立つだけでなく、発展するストレージテクノロジーへの追従も可能にします。

DIVArchive のインストールはサイトごとに異なります。このガイドでは、特定の DIVArchive プラットフォームの正確な構成は説明されていません。特定の DIVArchive システムのインストールおよび構成の詳細は、使用している DIVArchive システムの構成を参照するか、Oracle インストールおよびデリバリーチームにお問い合わせください。

Oracle DIVArchive 7.5 では、Oracle Linux 7 x86_64 以降 (64 ビット) の環境でのシステムインストールがサポートされます。Oracle Linux では、システムインストール中に特定の言語を選択できますが、メインの Linux インストールは英語である必要があります。(インストール後に) 英語以外の言語を使用するには、その言語用に構成されたユーザーを作成する必要があります。すべての Windows インストールは英語のみにする必要があります。

システム構成は、サイトでの DIVArchive のインストール後に Oracle (または提携しているシステムインテグレータ) によって作成されたドキュメントです。これは、DIVArchive サブシステムとサードパーティーインタフェース、サイトの詳細と連絡先、ユーザー名とパスワード、およびリモートアクセスコードの構成の完全なレコードです。

1.2. Oracle DIVArchive のオプションおよびライセンス

次の表に、DIVArchive のオプションおよびライセンスメトリックを示します。

パーツ番号	説明	ライセンスメトリック
L101163	Oracle DIVArchive Nearline Capacity	T バイトごと
L101164	Oracle DIVArchive Archive Capacity	スロットごと
L101165	Oracle DIVArchive Actor	サーバーごと
L101166	Oracle DIVArchive Manager	サーバーごと
L101167	Oracle DIVArchive Partial File Restore	ラッパーごと
L101168	Oracle DIVArchive Avid Connectivity	サーバーごと
L101169	Oracle DIVArchive Application Filtering	サーバーごと
L101170	Oracle DIVArchive Storage Plan Manager (DIVArchive Manager ライセンスには 2 つのストレージ計画が含まれる)	サーバーごと
L101171	Oracle DIVAnet	サーバーごと
L101172	Oracle DIVAdirector	ユーザーごと
L101918	Oracle DIVArchive Export/Import	サーバーごと
L101919	Oracle DIVArchive Additional Archive Robotic System	テープライブラリごと
L101920	Oracle DIVArchive Automatic Data Migration	サーバーごと

第2章 DIVA 製品の互換性

この章では、DIVArchive 7.5 とほかの DIVA 製品ラインとの間の互換性について説明します。

2.1. Oracle Database および DIVArchive バックアップサービス

DIVArchive Oracle Database およびバックアップサービスコンポーネントは、DIVArchive システムの標準インストールの不可欠な要素としてインストールされます。これらのコンポーネントは通常、Oracle DIVArchive Manager と同じサーバーにインストールされます。

Oracle Database は、Oracle Database パッケージの一部として配布される RMAN および RSYNC コンポーネントを使用してバックアップされます。

DIVArchive バックアップサービスを使用したスケジュールされたバックアップは、その構成ファイルで構成されます。DIVArchive バックアップサービスは、バックアッププロセス全体を管理およびモニターします。

- Windows では、DIVAOracle データベース Oracle 12c パッケージ *OracleDivaDB_3-0-0_12_1_0_2_0_SE2_Windows_64-bit.zip* のみがサポートされます。DIVArchive 7.5 以降では、これ以前のデータベースパッケージは動作しません。

OracleDivaDB_3-0-0_12_1_0_2_0_SE2_Windows_64-bit.zip には、32 ビットの Oracle データベースクライアントは含まれていません。

- Linux 環境の DIVArchive 7.5 では、DIVA Oracle データベースパッケージ *OracleDivaDB_3-0-0_12_1_0_2_0_SE2_OEL7_x86_64.sh* のみがサポートされます。

2.2. Oracle DIVAnet

DIVAnet 2.1 は、DIVArchive 7.5 Linux ベースのインストールとの互換性のための新しいリリースです。DIVAnet 2.1 は Windows ベースのシステムでも動作します

が、DIVArchive 7.3.1 より前のリリースとの下位互換性はありません。DIVArchive 7.3.1 より前の DIVArchive リリースを実行する場合は、DIVAnet 2.0 またはレガシー DIVAnet (リリース 1.0) のどちらかを使用する必要があります。

レガシー Oracle DIVAnet (リリース 1.0) は、DIVArchive システムを別のソフトウェアリリースレベル、および DIVArchive 7.3.1 より前のリリースと接続するために引き続き使用できます。

7.3.1 より前の DIVArchive リリースを操作している場合は、*Oracle DIVAnet 2.0* ドキュメントライブラリにある『*DIVAnet* インストール、構成、および操作ガイド』、または *Oracle DIVArchive* レガシーライブラリにある対応するレガシー DIVAnet のドキュメント (リリース 6.5 および 7.2 の場合) を参照してください。

2.3. Oracle DIVArchive WS API

DIVArchive WS クライアントは DIVArchive WS API の同じリリースと互換性があり、DIVArchive WS API は DIVArchive の現在および将来のすべてのリリースと互換性があります。リリースレベル 1.0.x の DIVArchive WS クライアントは、DIVArchive リリース 6.5 以降のすべてと互換性のある DIVArchive WS API リリース 1.0.x と互換性があります。リリースレベル 2.0.x の DIVArchive WS クライアントは、DIVArchive リリース 7.0 以降のすべてと互換性のある DIVArchive WS API リリース 2.0.x と互換性があります。

WS API のインストールされたリリースレベルのあとに DIVArchive に追加された新機能は、すべて使用できません。すべての機能を使用するには、クライアントシステムを最新リリースにアップグレードする必要があります。同時に複数の DIVArchive WS リリースをインストールできるため、各クライアントシステムをそれぞれ互換性のあるサーバーに接続するようにしてください。

配布パッケージリリース	DIVArchive WS API リリース	互換性のある DIVArchive リリース	下位および上位互換性
2.0.x	1.0.x	6.5.x	下位互換性はサポートされません。 上位互換性は DIVArchive 6.5 以降に対してサポートされます。
2.1.x	2.0.x	7.0.x	下位互換性はサポートされません。

配布パッケージリリース	DIVArchive WS API リリース	互換性のある DIVArchive リリース	下位および上位互換性
			DIVArchive 7.0.x は非推奨になりました。上位互換性はサポートされません。
2.2	2.1	7.1 以降	下位互換性はサポートされません。 上位互換性は DIVArchive 7.1 以降に対してサポートされます。

第3章 ハードウェアおよびソフトウェア要件

この章では、DIVArchive 7.5 ソフトウェアをインストールおよび操作するための最小のハードウェアおよびソフトウェア要件について説明します。詳細なディスク構成情報については、「[一般的なストレージ要件](#)」を参照してください。

3.1. DIVArchive アーキテクチャー

DIVArchive システムは、1 台のコンピュータ上で実行できるか、または異なるシステムにわたって分散できるソフトウェアモジュールの組み合わせを使用します。

主要な DIVArchive コンポーネントは次のとおりです。

Oracle DIVArchive Manager

アーカイブシステムデータベースもホストしているアーカイブのコアコンポーネント。

DIVArchive Manager Cluster

Microsoft Cluster 構成に基づいています。DIVArchive Manager Cluster は Linux ではなく、Windows ベースの環境でのみ有効です。

Oracle DIVArchive Actor

すべてのデータ転送 (アーカイブ、復元、コピー、リパックなど) を処理します。

DIVArchive Actor および Manager (1 台のコンピュータ)

1 台のコンピュータ上で Actor と Manager の両方の機能を実行しているシステム。パフォーマンス上の理由から、この構成は避けるようにする必要があります。これは、エントリレベルの構成にのみ使用できます。

Oracle レガシー DIVAnet および DIVAnet 2.0

統合アクセスのための DIVAnet 構成で使用されます。レガシー DIVAnet は DIVArchive インストールプロセスの一部であり、Access Gateway と呼ばれます。DIVAnet 2.0 インストールは別のプロセスであるため、レガシー Access Gateway の当座の代替品ではありません。

Oracle DIVAnet 2.1

統合アクセスのための DIVAnet 構成で使用されます。DIVAnet 2.1 は、レガシー Access Gateway の当座の代替品ではありません。DIVAnet 2.1 は DIVArchive 7.5 Linux および Windows インストールとの互換性のために開発されたものであり、7.3.1 より前の以前の DIVArchive リリースとの下位互換性はありません。

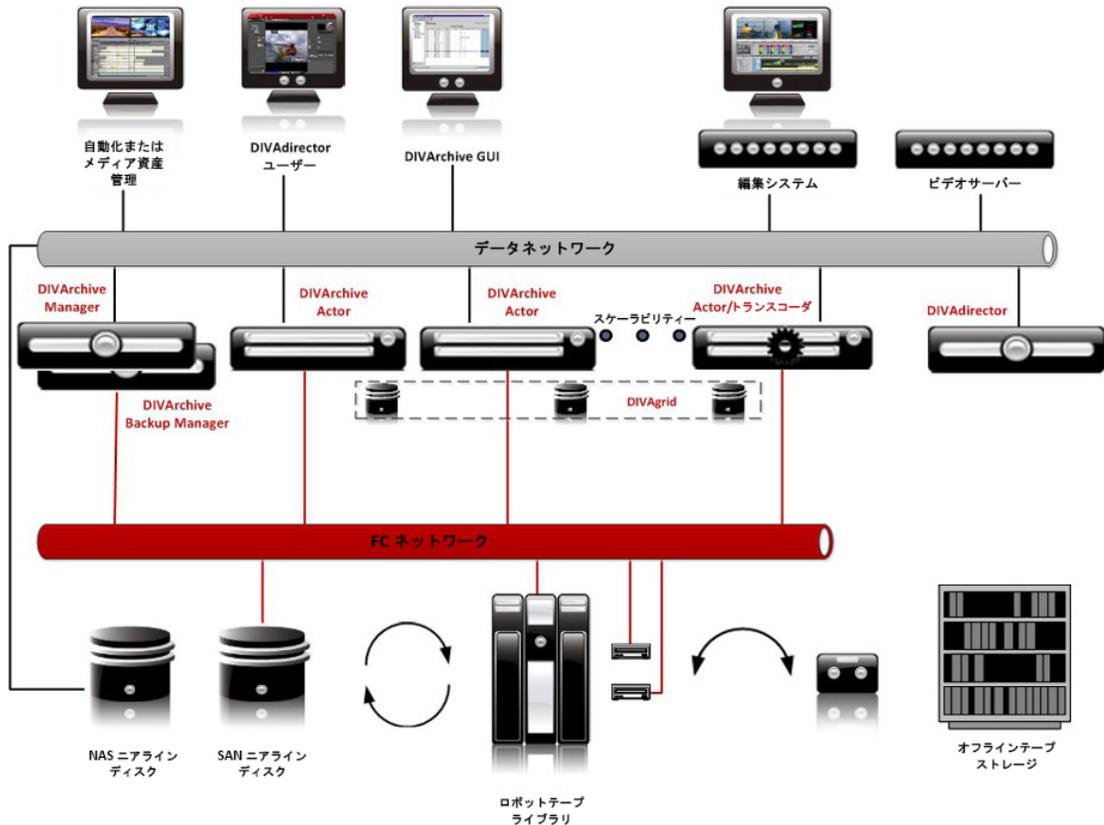
Oracle DIVAdirector

アーカイブを検索および参照するための Web ベースのアプリケーション。

DIVArchive コントロール GUI および構成 GUI

DIVArchive システムの構成、モニタリング、および管理に使用されます。

次の図は、主要な DIVArchive ソフトウェアコンポーネントが異なるサーバーにインストールされた DIVArchive 構成を表しています。(複数の DIVArchive システムにアクセスするために使用される) DIVAnet は表されておらず、一般には専用サーバーにインストールされます。



3.1.1. システムコンポーネントの相互接続性

データパス上で、DIVArchive ソリューションは、ストレージ側ではテープライブラリおよび (または) 共有ディスクに接続されます。ソースおよび宛先側では、ビデオサーバー、NLE、またはファイルサーバーに接続されます。

3.1.1.1. ストレージ接続

ストレージエリアネットワーク (SAN)、ネットワーク接続ストレージ (NAS)、または直接接続テクノロジーを使用できます。異なるタイプのストレージデバイスを使用

ポートするには、次のような異なるタイプのインタフェースがサーバー上に必要です。

- SAN 用のファイバチャネルホストベースアダプタ (HBA)
- 直接接続用の SCSI バスまたは HBA
- NAS 用の 10 ギガビット Ethernet (GbE)

3.1.1.2. ビデオサーバー接続

ビデオサーバーへの接続では一般に、標準 GbE または 10 GbE LAN テクノロジーを使用します。Grass Valley レガシープロファイルビデオサーバーは、2つのタイプのインタフェースを備えています。

- Universal Interface Module (UIM) は GbE を使用します
- 直接ファイバ接続が含まれたレガシープロファイルはすでに Grass Valley の提供を終了しており、Oracle によってサポートされなくなりました。

3.2. Intel、Microsoft Windows、および Oracle Linux

Oracle では、次の各セクションに示されている推奨事項に一致するか、またはそれを超える x86 アーキテクチャーサーバーは提供可能です (購入される Windows ライセンスを除く)。パートナーはまた、最小要件が満たされていれば、ほかのベンダーからサーバーを購入することもできます。Oracle では、ほかのベンダーの特定のモデルを認定したり推奨したりしません。

注意:

すべてのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムは英語でインストールされている必要があります。Oracle では、オペレーティングシステムがほかの言語でインストールされた DIVArchive コンピュータはサポートできません。

3.2.1. DIVArchive オペレーティングシステムの互換性

DIVArchive インストールをリリース 7.5 にアップグレードする場合は、次の表を使用して、システム内の各コンピュータに適切なオペレーティングシステムがインストールされていることを確認してください。

コンポーネン ト	DIVArchive リリース	オペレーティングシステムの互換性 (アップグレードの場合のみ)
Manager	7.5	Windows Server 2012 R2 (64 ビット)

コンポーネント	DIVArchive リリース	オペレーティングシステムの互換性 (アップグレードの場合のみ)
		Oracle Linux 7 x86_64 以降 (64 ビット)
Manager	7.4	Windows Server 2012 R2 (64 ビット) Oracle Linux 7 x86_64 以降 (64 ビット)
Manager	7.3	Windows Server 2008 R2 (64 ビット) Windows Server 2012 R2 (64 ビット)
Actor	7.5	Windows Server 2012 R2 (64 ビット) Oracle Linux 7 x86_64 以降 (64 ビット) ¹
Actor	7.4	Windows Server 2012 R2 (64 ビット) Oracle Linux 7 x86_64 以降 (64 ビット) ¹
Actor	7.3	Windows Server 2008 R2 (64 ビットのみ) Windows Server 2012 R2 (64 ビットのみ)
DIVAnet	2.1	Windows 2012 R2 (64 ビット) Oracle Linux 7 x86_64 以降 (64 ビット)
DIVAnet	2.0	Windows 2012 R2 (64 ビット)
DIVAnet	レガシー	Windows Server 2008 R2 (64 ビット) Windows Server 2012 R2 (64 ビット)

¹UNC パスが Windows Actor に直接マウントされている場合は、SMB ソース/宛先および管理対象ディスクに対して UNC パスがサポートされます。Linux ベースの Actor では、Vantage トランスコード操作のみがサポートされます

3.2.2. DIVArchive Manager

次のサーバープラットフォームは、DIVArchive Manager ソフトウェアのインストールに推奨される最小要件です。

- ラックマウントシャーシ
- 1 基の Xeon E5-2420 CPU (6 コア、1.9 GHz)
- 16G バイト RAM
- 2 台の 300G バイト HDD 10,000 RPM (RAID 1 で構成済み) システムディスク

注記:

DIVArchive を使用して DPX などの複合オブジェクトをアーカイブする場合は、推定されるトラフィック (1 日あたりにアーカイブされるオブジェクトのサイズや数) に基づいて特定の推奨事項を確認することをお勧めします。一般に、複合オブジェクトをアーカイブする必要がある場合は、少なくとも 2 台の 900G バイト HDD (10,000 RPM) を使用することをお勧めします。この推奨事項は Backup Manager や、Actor サーバーが Backup Manager に使用される場合は Actor にも有効です。

- 冗長電源装置およびファン
 - 2 つのオンボード GbE インタフェース (銅 RJ45 インタフェース)
 - テープライブラリ制御のための 1 つのファイバチャネルホストバスアダプタ (HBA)
-

注記:

構成で ACSLS ソフトウェアが使用されている場合、SONY Petasite ライブラリ (PCS ソフトウェアおよびネットワーク API 経由で制御されます) または Oracle StorageTek ライブラリではファイバチャネル HBA は必要ありません。

- Windows Server 2012 R2
- Oracle Linux 7 x86_64 以降

重要: ACSLS 仮想ライブラリが使用されている場合は、HBA が必要です (詳細は Oracle にお問い合わせください)。

3.2.3. DIVArchive Manager Cluster

次のサーバープラットフォーム (2 台の同一サーバー) は、クラスタ環境での DIVArchive Manager ソフトウェアのインストールに推奨される最小要件です。DIVArchive Manager Cluster は Linux ではなく、Windows ベースの環境でのみ有効です。

- ラックマウントシャーシ
- 1 基の Xeon E5-2420 CPU (6 コア、1.9 GHz)
- 16G バイト RAM
- 2 台の 300G バイト HDD 10,000 RPM (RAID 1 で構成済み) システムディスク

注記:

DIVArchive を使用して DPX などの複合オブジェクトをアーカイブする場合は、推定されるトラフィック (1 日あたりにアーカイブされるオブジェクトのサイズや数) に基づいて特定の推奨事項を確認することをお勧めします。一般に、複合オブジェクトをアーカイブする必要がある場合は、少なくとも 2 台の 900G バイト HDD (10,000 RPM) を使用することをお勧めします。この推奨事項は Backup Manager や、Actor サーバーが Backup Manager に使用される場合は Actor にも有効です。

- 冗長電源装置およびファン
 - 2 つのオンボード GbE インタフェース (銅 RJ45 インタフェース)
 - 1 つの SAS または FC HBA (共有ディスクベイ接続用)
-

注記:

デュアル RAID コントローラ (SAS または FC インタフェース) を備えた共有ディスクベイと、Oracle データベースを格納するために両方のサーバーに接続された 7 台の 300G バイト SAS ディスク。

- テープライブラリ制御用の 1 つのファイバチャネル HBA
-

注記:

構成で ACSLS ソフトウェアが使用されている場合、SONY Petasite ライブラリ (PCS ソフトウェアおよびネットワーク API 経由で制御されます) または Oracle StorageTek ライブラリではファイバチャネル HBA は必要ありません。

- Windows Server 2012 R2

3.2.4. DIVArchive Actor

次は、DIVArchive Actor ソフトウェアのインストールに推奨される最小サーバー構成です。

- ラックマウントシャーシ
- 1 基の Xeon E5-2420 CPU (6 コア、1.9 GHz)
- 16G バイト RAM
- 2 台の 300G バイト HDD 10,000 RPM (RAID 1 で構成済み) システムディスク
- キャッシュ用の RAID5 ディスク領域、少なくとも 4 台の 1T バイトディスク
- ニアラインストレージ用のオプションの RAID5 ディスク領域 (DIVAgrid アーキテクチャー)

注記:

DIVAgrid アーキテクチャーは、複数の DIVArchive Actor の直接接続ディスクを 1 つの単一 DIVArchive アレイに集約することで構成されます。DIVArchive Manager は、このアレイに格納する必要のあるコンテンツを、アレイを構成する異なる Actor にわたって分散させます。これにより、ニアラインディスクストレージのための費用対効果の高い高性能ソリューションが提供されます。これは、複数のオブジェクトインスタンスやトランスコードの作成を可能にするための一時的なディスクストレージが必要なワークフローに最適です。

- 冗長電源装置およびファン
- 2 つのオンボード GbE インタフェース (銅 RJ45 インタフェース)
- 1 つの 10 GbE インタフェース (オプション)
- 外部の共有ディスクへの接続のための 1 つのファイバチャネル HBA (オプション)
- テープドライブへの接続のための 1 つのファイバチャネル HBA
- Windows Server 2012 R2
- Oracle Linux 7 x86_64 以降

注記:

Linux ベースの Actor は、CIFS ソースおよび宛先の UNC パスをサポートしていません。Linux ベースの Actor では、Vantage トランスコード操作のみがサポートされます。

3.2.5. DIVArchive Actor および Manager (1 台のコンピュータ)

次は、1 台のコンピュータへの DIVArchive Actor および DIVArchive Manager ソフトウェアのインストールに推奨される最小サーバー構成です。パフォーマンス上の理由から、この構成はエントリレベルのシステムに制限するようにしてください。

- ラックマウントシャーシ
- 1 基の Xeon E5-2420 CPU (6 コア、1.9 GHz)
- 16G バイト RAM
- 2 台の 300G バイト HDD 10,000 RPM (RAID 1 で構成済み) システムディスク

注記:

DIVArchive を使用して DPX などの複合オブジェクトをアーカイブする場合は、推定されるトラフィック (1 日あたりにアーカイブされるオブジェクトのサイズや数) に基づいて特定の推奨事項を確認することをお勧めします。一般に、複合オブジェクトをアーカイブする必要がある場合は、少なくとも 2 台の 900G バイト HDD (10,000 RPM) を使用することをお勧めします。この推奨事項は Backup Manager や、Actor サーバーが Backup Manager に使用される場合は Actor にも有効です。

- キャッシュ用の RAID5 ディスク領域 - 少なくとも 4 台の 1T バイトディスク
- ニアラインストレージ用のオプションの RAID5 ディスク領域 (DIVAgrid アーキテクチャー)

注記:

DIVAgrid アーキテクチャーは、複数の DIVArchive Actor の直接接続ディスクを 1 つの単一 DIVArchive アレイに集約することで構成されます。DIVArchive Manager は、このアレイに格納する必要のあるコンテンツを、アレイを構成する異なる Actor にわたって分散させます。これにより、ニアラインディスクストレージのための費用対効果の高い高性能ソリューションが提供されます。これは、複数のオブジェクトインスタンスやトランスコードの作成を可能にするための一時的なディスクストレージが必要なワークフローに最適です。

- 冗長電源装置およびファン
- 2 つの GbE インタフェース
- 1 つの 10 GbE インタフェース (オプション)
- 外部の共有ディスクへの接続のための 1 つのファイバチャネル HBA (オプション)
- テープドライブへの接続のための 1 つのファイバチャネル HBA

注記:

テープライブラリ制御のために追加のポートが必要になることがあります。

- Windows Server 2012 R2
- Oracle Linux 7 x86_64 以降

注記:

Linux ベースの Actor は、CIFS ソースおよび宛先の UNC パスをサポートしていません。Linux ベースの Actor では、Vantage トランスコード操作のみがサポートされます。

3.2.6. Oracle DIVAnet 2.1

DIVAnet 構成は、分散 DIVArchive システムの統合されたビューを提供します。次は、DIVAnet 2.1 のインストールに推奨される最小サーバー構成です。

- ラックマウントシャーシ
- 1 基の Xeon E5-2420 CPU (6 コア、1.9 GHz)
- 16G バイト RAM
- 2 台の 300G バイト HDD 10,000 (RAID 1 で構成済み) システムディスク
- 1 つの 10 GbE インタフェース (オプション)

- Oracle Linux 7 x86_64 以降
- Windows Server 2012 R2

3.2.7. Oracle DIVAdirector

DIVAdirector は、DIVArchive システムに格納された資産へのわかりやすい Web ベースのウィンドウを提供する Oracle のアーカイブコンテンツ管理アプリケーションです。DIVAdirector は、アーカイブされたクリップのプロキシバージョンを再生でき、ローカルディスク、SAN、または NAS ディスクストレージにプロキシファイルを格納できます。次は、DIVAdirector のインストールに推奨される最小サーバー構成です。

- ラックマウントシャーシ
- 2 基の Xeon E5-2440 CPU (6 コア、2.4 GHz、15M バイトキャッシュ)
- 16G バイト RAM
- 2 台の 300G バイト HDD (RAID 1 で構成済み) システムディスク
- 冗長電源装置およびファン
- RAID5 ディスク領域プロキシストレージ 5 台の 3T バイト (ローカルに格納される場合)
- 2 つのオンボード GbE インタフェース
- 1 つの 10 GbE インタフェース (オプション)
- プロキシストレージ用の外部の共有ディスクへの接続のためのファイバチャネル HBA (オプション)
- Windows Server 2012 R2

3.3. 一般的なストレージ要件

次の表は、さまざまなコンポーネントの主なストレージ特性を示しています。

サーバー	CPU	システムディスク	キャッシュとディスク	データディスク
Manager Cluster ¹	1	RAID1	いいえ	いいえ
Manager	1	RAID1	いいえ	いいえ
Actor	1	RAID1	RAID5	ニアライン (オプション)
Actor および Manager	1	RAID1	RAID5	ニアライン (オプション)

サーバー	CPU	システムディスク	キャッシュとディスク	データディスク
Actor およびトランスコード	2	RAID1	RAID5	トランスコード領域に加え、オプションのニアラインディスク。
DIVAnet	1	RAID1	いいえ	いいえ
DIVAdirector	2	RAID1	いいえ	プロキシ外部ストレージが接続されていない場合は RAID5。

¹DIVArchive Manager Cluster は Linux ではなく、Windows ベースの環境でのみ有効です。

3.3.1. DIVArchive Manager

CPU、メモリー、ディスク、およびネットワークに関する DIVArchive Manager サーバーの仕様の要件は、システムのサイズや、Manager での処理を予定している要求の数によって異なります。次のサーバー仕様は、DIVArchive Manager ソフトウェアのインストールに推奨される最小要件です。

プロセッサ

単一のクワッドコアプロセッサ。Windows Server 2012 R2 および Oracle Linux 7 更新 2 を実行するには、64 ビットコンピュータを使用する必要があります。

RAM

少なくとも 16G バイト。

Ethernet

2つのギガビット Ethernet 接続。

ファイバ

これはオプションです。ただし、テープライブラリが SCSI 制御される場合は、デュアルファイバチャネルが推奨されます。

ディスク

次は、Manager コンピュータの最小パーティションサイズです。これらの最小サイズは Manager バックアップ構成や、Backup Manager として使用される Actor にも有効です。

注意:

すべてのパーティションが RAID で保護される必要があります。

Windows パーティ ション	Linux パー ティション	最小サイズ	推奨されるブロックサイズ	コメント
C:/DIVA	/home/diva	10G バイト	オペレーティングシステムの デフォルト	DIVArchive ソフトウェ ア

Windows パーティ ション	Linux パー ティション	最小サイズ	推奨されるブロックサイズ	コメント
C:/app	/u01	10G バイト	オペレーティングシステムの デフォルト	DIVArchive Oracle Database バイナリ
E:/	/u02	20G バイト	8 kb	DIVArchive Oracle Database データファイ ル
F:/	/u03	5G バイト (厳密 に)	4 kb	DIVArchive Oracle Database アーカイブ ログ
H:/	/u04	130G バイト	64 kb	DIVArchive Oracle Database バックアップ フォルダ
G:/	/u05	100G バイト	オペレーティングシステムの デフォルト	DIVArchive 複合オ ブジェクト Metadata Database (オプショ ン)。「複合オブジェ クト」を参照してくだ さい。

3.3.2. Oracle DIVArchive Actor

CPU、メモリー、ディスク、およびネットワークに関する DIVArchive Actor サーバーの仕様の要件は、システムのサイズや必要な合計スループットによって異なります。Actor サーバーを追加して、追加のスループットを得ることができます。次のサーバー仕様は、DIVArchive Actor ソフトウェアのインストールに推奨される最小要件です。

プロセッサ

単一のクワッドコアプロセッサ。Windows Server 2012 R2 および Oracle Linux 7 更新 2 を実行するには、64 ビットコンピュータを使用する必要があります。

RAM

少なくとも 16G バイト。

Ethernet

2つのギガビット Ethernet 接続。10 Gbe が推奨されます。

ファイバ

テープドライブ制御にはデュアルファイバチャンネルが推奨されます。

ディスク

次は、Actor コンピュータの最小パーティションサイズです。

注意:

すべてのパーティションが RAID で保護される必要があります。

Windows パーティ ション	Linux パー ティション	最小サイズ	推奨されるブロックサイズ	コメント
C:/DIVA	/home/diva	10G バイト	オペレーティングシステムの デフォルト	DIVArchive ソフトウェア
H:/	/u04	130G バイト	64 kb	DIVArchive Oracle Database バックアップ コピー (オプション)

3.3.2.1. キャッシュディスク

このディスクは、キャッシュ、テープからテープへのコピー、テープのスパニング、およびテープのリパック操作にのみ使用されます。キャッシュを RAID で保護されたディスク上に配置する必要はありませんが、そのように配置することをお勧めします。

このディスクのサイズは、最大のオブジェクトのサイズ以上である必要があります。キャッシュディスクはローカルディスク、SAN、NFS、または接続されている SMB のいずれでもかまいません。キャッシュディスクのブロックサイズは、少なくとも 64 kb に設定することをお勧めします。

3.3.2.2. ストレージまたはストレージおよびニアライン

このディスクは DIVArchive オブジェクトの格納のほか、ニアライン操作にも使用されます。ストレージサイズは、オブジェクトを格納するための望ましい容量によって異なります。このディスクは RAID で保護される必要があります。

ストレージディスクはキャッシュにも使用できます。ストレージディスクはローカルディスク、SAN、NFS、または接続されている SMB のいずれでもかまいません。ストレージディスクのブロックサイズは、少なくとも 64 kb に設定することをお勧めします。

第4章 ライブラリおよびドライブ

この章では、DIVArchive 7.5 によってサポートされるさまざまなライブラリおよびドライブについて説明します。

4.1. サポートされるライブラリおよび制御ソフトウェア

次の表に、DIVArchive 7.5 によってサポートされるライブラリおよび関連する制御ソフトウェアを示します。*LibAttach* は *Linux* ではなく、*Windows* ベースの環境でのみ有効です。

製造元	ライブラリ	制御ソフトウェア	Robot Manager モジュール
Dell	TL4000/TL2000 ¹	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	ML6010 ²	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
HP	StoreEver	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	ESL G3-700	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	ESL G3-1500	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	ESL G3-3000	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	ESL G3-5000	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	MSL-2024	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	MSL-2048	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
IBM	TS3100	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	TS3200	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	TS3310	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	TS3500	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	TS4500	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
Oracle	SL8500 ³	LibAttach 1.4.2 ⁵	Robot_ACSLs
StorageTek	SL500 ⁴	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI

製造元	ライブラリ	制御ソフトウェア	Robot Manager モジュール
	SL150	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	9310	ACSL5 7.1	Robot_AC5LS
	5500	ACSL5 7.2	Robot_AC5LS
	L180	ACSL5 7.3 または Direct SCSI/FC	Robot_AC5LS または Robot_SCSI
	L7000	ACSL5 8.0 または ACSLS 8.2	Robot_AC5LS
	SL24	LibAttach 1.4.2 ⁵	Robot_AC5LS
	L80	Direct SCSI/FC	Robot_AC5LS
	L40	Direct SCSI/FC	Robot_AC5LS
	L20	Direct SCSI/FC	Robot_AC5LS
	L1400M	Direct SCSI/FC	Robot_AC5LS
Oracle StorageTek	SL3000	LibAttach 1.4.2 ⁵	Robot_AC5LS
		Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
Qualstar	TLS-5000RLS- 85210	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
		Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
Quantum (ADIC)	Scalar i6000	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	Scalar i500	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	Scalar i40/i80	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	Scalar 100	Scalar DLC または Direct SCSI/FC	Robot_ADIC または Robot_SCSI
	Scalar 1000	Scalar DLC または Direct SCSI/FC	Robot_ADIC または Robot_SCSI
	Scalar 10000	Scalar DLC または Direct SCSI/FC	Robot_ADIC または Robot_SCSI
	Scalar 12000	Scalar DLC または Direct SCSI/FC	Robot_ADIC または Robot_SCSI
	Scalar i2000 ⁶	Scalar DLC または Direct SCSI/FC	Robot_ADIC または Robot_SCSI
Sony Petasite	S60	PSC 5.00	Robot_Sony
Sony ODA	ODS-L10ODS- L30MODS- L60EODS-L100E	Robot Manager	Robot_SCSI
		Robot Manager	Robot_SCSI
		Robot Manager	Robot_SCSI
		Robot Manager	Robot_SCSI

製造元	ライブラリ	制御ソフトウェア	Robot Manager モジュール
Spectralogic	T-Finity	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	T950	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	T680、T380、T200	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	T120	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI
	T50e	Direct SCSI/FC	Robot_SCSI

¹Dell TL2000 は IBM TS3100 ライブラリです。

²Dell ML6010 は AIDC i500 ライブラリです。

³複数の LSM および LSM ごとに 1 台のロボットが構成されている場合、ロボットの障害時に動作しません。

⁴SL500 ライブラリは、まもなく提供終了 (EOL) に移行されます。

⁵DIVArchive は 64 ビットではなく、32 ビット LibAttach のみをサポートします。

⁶自動クリーンはサポートされませんが、パーティション分割を含む Scalar i2000 がサポートされます。

4.2. サポートされるドライブ

このセクションでは、DIVArchive 7.5 によってサポートされるドライブについて説明します。

製造元	ドライブモデル
HP	LTO-3
	LTO-4
	LTO-5
	LTO-6
	LTO-7
IBM	LTO-1
	LTO-2
	LTO-3
	LTO-4
	LTO-5
	LTO-6
	LTO-7 ¹
3592	

製造元	ドライブモデル
	TS1120
	TS1140
	TS1150
Matsushita	LFD30xx
Oracle StorageTek	Titanium 10000-A
	Titanium 10000-B
	Titanium 10000-C
	Titanium 10000-D
	9840A
	9840B
	9840C
	9840D
	9940A
	9940B
Sony (光学)	ODS-D55U
	ODS-D77F
	DIVArchive 7.4 以降では、次のドライブがサポートされます。
	ODS-280F
	ODS-280U ²

¹IBM LOT-7 ドライブのドライブは現在、Windows Server 2008 ではなく、Windows Server 2012 に対してのみ存在します。

²ODS-280U は、DIVArchive 7.5 での使用は保証されていません。

4.2.1. Sony ODA 光学ドライブ

Sony ODA ブルーレイ光学ドライブは、DIVArchive 7.5 では Windows でのみサポートされます。これらのドライブは、コントロール GUI の「**Disk Drives**」タブの下に (UDF 形式を持つ) テープドライブおよびカートリッジとして表示できます。これらのドライブは、システムで DIVArchive を構成する前に、光学ディスクアーカイブユーティリティを使用して構成する必要があります。Windows デバイスマ

ネージャーでは、使用できるドライバが存在しないため、これらのドライブは「不明なデバイス」として表示されます。DIVArchive システムにこれらのドライブを含めるには、いくつかの構成ファイルを変更する必要があります。詳細は、『Oracle DIVArchive インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

4.2.1.1. DIVArchive 7.5 新しいドライブの互換性

DIVArchive 7.5 では、Sony の新しいタイプの ODA ドライブがサポートされます。これらのドライブの詳細は次のとおりです。

- Sony は、新世代の ODA ドライブ *ODS-280F* および *ODS-280U* をリリースしました。DIVArchive は、ファイバチャネルタイプでのみテストされています。これらのドライブの速度は *Gen1* ドライブの 2 倍です。*ODS-280U* は、DIVArchive 7.5 での使用が保証されていません。
- このドライブでは、新しいタイプのカートリッジ *ODC3300R* が使用できます。これは、3.3T バイトの容量を持つ WORM ドライブです。
- *Gen2* ドライブは、*Gen1* ドライブで *Gen1* メディアに書き込まれたコンテンツを読み取ることができます。DIVArchive では、読み取り専用のメディアドライブ互換性はサポートされません。構成で *Gen1* メディアを *Gen2* メディアから切り離すことをお勧めします (世代間の互換性はなし)。また、*Gen1* カートリッジを含むライブラリ内には少なくとも 1 台の *Gen1* ドライブが存在する必要があります。

第5章 Oracle DIVArchive Partial File Restore 形式

この章には、Oracle DIVArchive Partial File Restore 操作でどのような形式が正常にテストされたかを示すさまざまなマトリックスが含まれています。相互運用性を確認するために、顧客から提供されるサンプルでテストすることをお勧めします。エンコーディングプロファイル内のバリエーションが原因で Partial File Restore 機能に問題が発生した場合、Oracle ではサポートできません。すべての形式は **AUTO_DETECT** をサポートします。

各実装の詳細は、Oracle サポートにお問い合わせください。

5.1. General Exchange Format (GXF)

GXF Partial File Restore は、Windows では次の形式でサポートされます。

- Aurora Edit
 - MPEG2 D10 MPEG2 I フレーム
 - MPEG2 D10 MPEG2 LGOP
- BitScream
 - DV25
- DIVArchive TMCommunicator
 - DV25
 - DV50
 - MPEG2 D10
- K2 Media System
 - MPEG2 D10 MPEG2 I フレーム
 - MPEG2 D10 MPEG2 LGOP
- K2 Media System/Summit
 - AVC-I
 - DVCPRO

- XDCAM HD
- Mseries
 - MPEG2 D10 MPEG2 I フレーム
 - MPEG2 LGOP
- NewsEdit
 - DV25
 - DV50
 - MPEG2 D10 MPEG2 I フレーム
- PDR
 - MJPEG
- Profile XP
 - DV25
 - DV50
 - MPEG2 D10 MPEG2 I フレーム

5.2. Material Exchange Format (MXF)

MXF 標準仕様 (SMPTE377M) では、複数の操作パターンが定義されます。OP1a のみがサポートされます。MXF Partial File Restore は、Windows では次の形式でサポートされます。

製造元	製品	リリース	認定されたビデオエッセンス
AmberFin, Ltd.	iCR	4.0.3、4.5.1	MPEG2 LGOP HD
Avid	TRMG	2.97	MPEG D10
		1.00、3.00	DV25
		3.00	XDCAM HD
Canopus Company, Ltd.	EDIUS	5.00	XDCAM HD
EVS - OpenCube	MXFTk Advanced	2.1.10.0	DV50、DV100
		2.2.4.0	DNxHD
Harris Corporation	Nexio	1.0.0.0	DV50
Leitch	VR475	1.00	DVCPRO HD, DV50
Ligos Corporation	MediaRig	Ligos MXF 1.0	MPEG2 D10

製造元	製品	リリース	認定されたビデオエッセンス
Matrox Electronics	DSX	50.46.48.0	XDCVAM HD
MOG	MXFspeedrail	Toolkit 4.2.1.326	MPEG2 D10
OC ¹	OCTk	2.1	MPEG2 D10
Omneon Video Networks	Omneon Media Subsystems	4.6.0.0	MPEG2 D10
		4.7.0.0	DV25
Oracle	Bitscream	3.1.0.90	DV25
	TMCommunicator	3.1.0.74	MPEG2 D10、DV25、DV 50
	TMCommunicator	4.1.1.245	DVCPRO HD、DNxHD
Quantel	GenerationQ	C3.0 リビジョン 13.18	MPEG D10
		C2.1 リビジョン 22.43	MPEG D10
		V2.1 22	MPEG D10
		T4.0 R&D、C3.6 11.003	AVC-i
SAMMA Systems	MXF for Oracle SAMMA MJPEG2K	0.2.0.41	MJPEG2K
SeaChange ²³	MediaClient	2.3.0.12	MPEG2 D10
Snell & Wilcox, Ltd.	iCR	3.0.0	MPEG2 LGOP HD
Sony	Opt	1.00	MPEG2 D10
	Opt	1.21, 1.22	XDCAM HD
	eVTR	1.00	MPEG2 D10
	HA	1.00	MPEG2 D10
	XDCAM Transfer	Sony MXF SDK 2.1.0.0	XDCAM HD
Telestream	FlipFactory	3.00	MPEG2 D10, XDCAM HD
Thomson Broadcast and Media Solutions, Inc.	Universal Interface Module	2.0.6.3, 2.0.14.2	MPEG2 D10
Thomson Grass Valley, Inc.	K2 Media Systems	エンジニアリングリリース	MPEG2 D10
		Toolkit 9.8.7.0	XDCAM HD

¹OCTk によって作成された MXF ファイルは、Oracle SAMMASolo によって作成されたファイルです。

²Seachange によって生成された MXF は、(.pd または .vix ファイルではなく) スタンドアロンの MXF ファイルとしてサポートされます。

³DIVArchive 7.2.2 から、Vstream プロトコルは Seachange ソースおよび宛先に対してサポートされなくなりました。これは、-ftp オプションが指定されていない場合 (FTP ではなく、Vstream プロトコルが使用されていることを示す)、ソースタイプ SEACHANGE_BMC および SEACHANGE_BML に適用されます。

5.3. Audio Video Interleaved (AVI)

適用可能なラッパー形式はオブジェクトごとの 1 つの AVI ファイルであり、オーディオトラックを含む場合があります。この Partial File Restore は、**AUTO_DETECT** によってのみサポートされます。

Adobe Premiere

DVSD および PCM ビデオおよびオーディオエッセンスをサポートします。

Harris Corporation Nexio 3600

DVSD および PCM ビデオおよびオーディオエッセンスをサポートします。

5.4. 個別の WAV ファイルを含む Audio Video Interleaved (AVI)

適用可能なファイル形式は、個別の WAV ファイルを含む 1 つの AVI ファイルです。AVI ファイルは 1 つのビデオトラックを含み、WAV ファイルは PCM サンプル形式を含みます。この Partial File Restore は、**VIDEO_FORMAT_AVI** および **AUTO_DETECT** によってサポートされます。

製造元	製品	リリース	サポートされるビデオおよびオーディオエッセンス
Insipiens	AVI Writer	1.0.0.0	MPEG2 LGOP
Matrox	MQSink Filter Format 4	2.0.0.271	DV25、DV50
	MQSink Filter Format 6	2.0.0.271	Dv25、DV50、DVSD
	MQSink Filter for MPEG Format 4	2.0.0.270、2.0.0.271	MPEG2 LGOP、MPEG2 I フレーム ¹
	DSX AVI File Format 6	1.0.0.362、1.0.0.401	MPEG2 LGOP ² 、M701 HD
Telestream	FlipFactory	不明	DVSD、MPEG2 LGOP
		6.0、6.1	M701 HD

¹MPEG2 I フレームは 2.0.0.271 でのみサポートされます。

²MPEG2 LGOP は 1.0.0.362 でのみサポートされます。

5.5. QuickTime

QuickTime はファイルラッパーであり、さまざまなタイプ (オーディオ、ビデオ、その他) の複数のトラックを含む場合があります。QuickTime 自己完結型クリップは、**OMNEON** および **AUTO_DETECT** を使用してサポートされます。

QuickTime Partial File Restore は、Windows Actor によってのみサポートされます。

MPEG2 LGOP (オーディオの 16 トラックでは XDCAM HD 422) での Partial File Restore の QuickTime のサポートは、ビデオまたはオーディオコンテンツのタイプには関係なく、次のようにサポートされます。

- クリップあたりのトラック数は現在、30 に制限されています。
- 各トラックの期間と開始時間は同じである必要があります。
- QuickTime 標準は、Partial File Restore ではサポートされない詳細編集リスト機能をサポートします。
- 各トラックは、0 から開始している場合も開始していない場合もある 1 つの有効な編集リストエントリで構成されている必要があります。

一部のコンテンツタイプはサポートされません (一部のビデオとオーディオの組み合わせを含む)。次の表に、サポートされるタイプを示します。

サポートされるトラックタイプ	カーディナリティー
ビデオ	クリップあたり 1 つのビデオトラック
ビデオ	クリップあたり 2 つのビデオトラック ¹
オーディオ	クリップあたり 0 または複数のトラック
クローズドキャプション ²	クリップあたり 1 つのトラック
1 つのエントリを含むタイムコード	クリップあたり 1 つのトラック
複数のエントリを含むタイムコード	クリップあたり 1 つのトラック

¹Quicktime クリップが 2 つのビデオトラックを含んでいる場合、各トラックは同期される必要があります、その期間と 00:00:00:00 からの開始時間は同じである必要があります。

²空のクローズドキャプショントラックがサポートされます。

5.5.1. QuickTime 自己完結型クリップ

ビデオエッセンスの形式は、QuickTime 自己完結型クリップでの条件ではありません。理論的には、Partial File Restore for QuickTime は任意のタイプのビデオエッセンスをサポートできます。Partial File Restore は、ビデオエッセンス形式の次のバリエーションにはお勧めできません。

- ビデオ品質が 420 または 422 をサポートする場合
- ピクセル数が要因ではない場合
- クリップがビットレートに依存しない場合

次の表は、何がすでにテストされていて、*Partial File Restore* によるサポートを保証していないのかを示しています。サポートされるオーディオ形式は *AIFF* と *WAV (LPCM)* のみです。

製造元	製品	リリース	サポートされるビデオエッセンス
Dalet			DVCPRO100
Omneon	Spectrum	5.x	DV25、DVCPRO、DVCPRO50、DVCPRO HD、MPEG2 D10、MPEG2 I フレーム、MPEG2 LGOP、MPEG2 LGOP HD
Oracle	SAMMA solo	不明	DV25
Telestream	FlipFactory		MPEG2 LGOP

5.6. Leitch Exchange Format (LXF)

Leitch Exchange Format (LXF) は適切に定義されており、クリップのソース (Nexio、FlipFactory、その他) には関係なく、*Partial File Restore* はこのファイル形式の特定のリリースをサポートします。サポートされる要求形式は、**AUTO_DETECT** または **VIDEO_FORMAT_LEITCH** のどちらかです。

LXF Release 0 でサポートされるビデオおよびオーディオエッセンスは次のとおりです。

- MPEG2 I フレーム標準定義 (SD)
- MPEG2 LGOP SD
- DV
- DVCPRO
- DVCPRO50

LXF Release 1 でサポートされるビデオおよびオーディオエッセンスは次のとおりです。

- MPEG2 4:2:2 (1080i および SD のみ)
- DV SD

- DVCPRO SD
- DVCPRO50 SD
- DVCPRO HD

5.7. 個別の WAV ファイルを含む DIF

適用可能なファイル形式は、個別の WAV ファイルを含む 1 つの DIF または DV ファイルです。WAV ファイルは PCM サンプル形式を含みます。この Partial File Restore は、**AUTO_DETECT** または **VIDEO_FORMAT_OMNEON** のどちらかを使用して、DV25 と WAV PCM で Avid Liquid および Omneon Spectrum をサポートします。

5.8. Broadcast WAV (BWA)

Broadcast WAV (BWA) は、追加情報 *Bext* および *iXML* (オプション) を含む通常の WAV ファイルです。*Bext* は、*TimeReference* (ミリ秒単位のタイムコードリファレンス) などのメタデータを含むブロードキャスト拡張機能です。DIVArchive は、*Bext* を Partial File Restore のタイムコードリファレンスとして使用します。

BWA はまた、*iXML* と呼ばれるオプションのメタデータも含む場合があります。メタデータ *iXML* は、追加の *TimeReference* およびフレームレートを含みます。*iXML* と *Bext* の両方が存在する場合、DIVArchive は (ミリ秒とタイムコードの間の変換に役立つ) 正確なフレームレートを含む *iXML* を使用します。*iXML* がいない場合、ミリ秒からタイムコードへの変換は概算にすぎません。

第6章 ソースおよび宛先

DIVArchive は、ブロードキャストビデオサーバー、ビデオ編集システム、汎用コンピュータシステムなどの外部の装置との間でコンテンツを転送します。次は、DIVArchive 7.5 によってサポートされる認定されたインタフェースおよびプロトコルです。

注記:

DIVArchive 7.2.2 から、Vstream プロトコルは Seachange ソースおよび宛先に対してサポートされなくなりました。これは、**-ftp** オプションが指定されていない場合 (FTP ではなく、Vstream プロトコルが使用されていることを示す)、ソースタイプ *SEACHANGE_BMC* および *SEACHANGE_BML* に適用されます。

6.1. ソースおよび宛先サーバー

次の表に、DIVArchive 7.5 によってサポートされるソースおよび宛先サーバーを示します。

製造元	サーバーモデル	プロトコル	Unicode のサポ ート	OTU のサ ポート
Avid	<i>FTP_STANDARD</i> の表を参 照してください。	FTP	Oracle DIVArchive Avid Connectivity ユーザーズガイド を参照してくださ い。	いいえ
DataExpedition	Expedat 1.15、Expedat 1.16	MTP	はい	いいえ
ディスク (ローカ ル)	内蔵ディスク	直接	はい	いいえ
ディスク (ネット ワーク)	共有ファイルシステム、 SAN、NAS	CIFS	はい	いいえ
EVS	Little Big Server、XT3	FTP	いいえ	いいえ
Grass Valley	NewsEdit、NewsFTP (Aurora Edit HD)、	FTP	K2 のみがサポー トされます。	いいえ

製造元	サーバーモデル	プロトコル	Unicode のサポ ート	OTU のサ ポート
	MXF を含む UIM Gateway ¹ 、K2 ²			
Leitch	VR Series ³ 、Nexio 3600	FTP	Nexio 3600 のみがサポートされま す。	Nexio 3600 のみがサ ポートされ ます。
Omneon	Spectrum 4.6 SR2 Spectrum 4.7 SR2 Spectrum 5.0 SR1	FTP および AVI プレイ ヤー FTP および AVI プレイ ヤー FTP および AVI プレイ ヤー	Spectrum 5.0 SR1 のみがサポートさ れます。	はい はい はい
Omneon	System Manager 5.14 を含 む Spectrum 6.1	FTP のみ	はい	はい
Omneon	MediaGrid ⁴ 1.1	MediaGrid ファイルシス テムドライバを使用し てマップされるドライ ブ	はい	いいえ
Quantel	ISA ゲートウェイを含む SQserver 地域サーバー ⁵	FTP	いいえ	いいえ
Sony	News Base Hyper Agent	FTP	いいえ	いいえ
各種 (UNIX、 Windows、Mac)	任意の標準 FTP サーバー (RFC-959) セキュア FTP サーバー V3 (限定されたサポート)	FTP SFTP	いいえ いいえ	いいえ いいえ

¹MXF を含む UIM Gateway はリリース 2.0.6.3 でサポートされます。

²GXF および MXF 形式がサポートされます。

³WanStreamer または ArchiveStreamer の使用のみがサポートされます。

⁴依存する API が Linux と互換性がないため、Linux は MediaGrid をサポートしません。

⁵MXF はリリース 2.1-22.09 をサポートします。リリース 2.1-22.10 は TAR 形式のインテリジェントアーカイブをサポートします。

次の表に、*FTP_STANDARD* をサポートしている FTP サーバーを示します。

注記:

Oracle は、Linux オペレーティングシステム環境にインストールされた DIVArchive システムに対して Linux ベースの FTP サーバーのみをサポートします。

製造元	製品名	Actor の認定	Unicode のサ ポート	DFM の認定	OTU の認定
Microsoft	IIS	はい ¹	いいえ	はい ²	はい
FileZilla	FileZilla FTP サーバー	はい	はい	いいえ	はい
Gene6	Gene6 FTP サーバー	はい	はい	いいえ	いいえ

¹Actor は UNIX ライクなリストタイプが構成された状態で IIS をサポートします。

²DFM は DOS ライクなリストタイプが構成された状態で IIS をサポートします。

第7章 Oracle DIVArchive Avid Connectivity

この章では、DIVArchive 7.5 での Oracle DIVArchive Avid Connectivity サポートの概要について説明します。詳細は、Oracle DIVArchive 7.5 追加機能のドキュメントライブラリにある『Oracle DIVArchive Avid Connectivity ユーザーズガイド』を参照してください。

7.1. Avid Interplay の互換性

次の表に、AMC および TMC での現在の Avid Interplay と DIVArchive リリースの互換性を示します。

注記:

すべてのリリースに *AMCommunicatorI22* を使用してください。レガシーワークフローには 1.0 を、Avid Direct ワークフローには 2.0 を使用してください。

Interplay リリース	TMCommunicator	TMCommunicator バイナリ	AMCommunicator
2.2.x	はい	<i>TMCommunicatorI22</i>	はい
2.3.x	はい	<i>TMCommunicatorI22</i>	はい
2.4.x	はい	<i>TMCommunicatorI22</i>	はい
2.5.x	はい	<i>TMCommunicatorI25</i>	はい
2.6.x	はい	<i>TMCommunicatorI26</i>	はい
2.7.x	はい	<i>TMCommunicatorI26</i>	はい
3.0.x	はい	<i>TMCommunicatorI30</i>	はい
3.1.x	サポートされません	サポートされません	はい
3.2.x	DHM のみ	<i>TMCommunicatorI32</i> - <i>TMClient 3.1</i> が必要です。DET 復元はサポートされません。	はい
3.3.x	DHM のみ	<i>TMCommunicatorI33</i> - DET 復元はサポートされません。	はい
3.4.x	DHM のみ	<i>TMCommunicatorI33</i> - DET 復元はサポートされません。	はい

Interplay リリース	TMCommunicator	TMCommunicator バイナリ	AMCommunicator
3.5.x	はい	<i>TMCommunicatorI33</i>	はい
3.6.x	いいえ		はい